

ディプロマポリシー		電気電子工学に関する基礎的理論と複合的な専門的知識、さらに応用技術まで幅広く理解し、広い視点と高い論理性に基づいて、先端技術動向やニーズを踏まえた総合的な判断力によって研究の実践、課題解決ができる。 電気電子工学に関する専門的技術の習得、他者との協働、外国語を含めたコミュニケーション能力を高める。																																																									
配当単位数合計		13単位			20単位			配当単位数合計			14単位			10単位		12単位		6単位		8単位		6単位		8単位		97単位																																	
M2 M1	前期・後期	●●：必修科目 ●：選択必修科目 □：不問講科目		グローバルテクノロジー特論b 1	材料・デバイス開発実務特論 3	ロボティクス特論 2	エンジニアリング・コミュニケーション特論 1	CAD/CAM特論 2	自動車工学特論 2	グローバルテクノロジー特論a 1	航空宇宙工学特論 2	国際化特論 2	グローバル・リーダーシップ特論 2	半導体エレクトロニクス特論 2	表示デバイス工学特論 2	光機工学特論 2	通信システム・方式特論 2	ソフトウェア工学特論 2	電力工学特論 2	エネルギー・環境工学特論 2	パルスパワー工学特論 2	電力工学特論 2	材料設計工学特論 2	加工工学特論 2	材料設計工学特論 2	振動工学特論 2	内燃機関特論 2	機械制御特論 2	加工工学特論 2	接合工学特論 2	航空工学特論 2																												
		応用数学特論 2	技術経営特論 2	国際化特論 2	フィールド研究 4	フィールドプラクティス 4	分野	光・エレクトロニクス	情報・通信	エネルギー・機器	制御・システム	材料・機械工学	熱・流体	設計・製作	年間履修上限単位数なし																																												
分野		共通横断			専門横断			分野			光・エレクトロニクス			情報・通信		エネルギー・機器		制御・システム		材料・機械工学		熱・流体		設計・製作		年間履修上限単位数なし																																	
カリキュラムポリシー		「専門」に「エレクトロニクス・情報分野」、「電機・制御分野」を置き、学士課程教育で培ったエンジニアとしての能力をさらに高度化する。また、高度な基礎理論から最新の応用技術にわたる幅広い専門知識と先端技術のみならず、最新の専門的理論や最先端の応用技術を体系的に修得する。同時に国内外の関連する文献を調査・要約・整理してまとめた内容を的確に伝達する能力を養成するとともに、国内外の研究発表を通じて、自身の考えや研究成果を的確に伝達して議論できるコミュニケーション能力とプレゼンテーション能力を身に付ける。 「専門横断」では、研究分野の専門知識・技能を深めるとともに、他の工学分野と共通する工学知識や技術を修得する。 「共通横断」では数理分野・語学から社会倫理におよぶ幅広い知識を修得することにより、ユニバーサルな視点にたつた的確なものの見方と考え方を確立する。																																																									
アドミッションポリシー		「エレクトロニクス・情報分野」、「電機・制御分野」において、高度な専門知識やスキルを習得し、また、機械工学知識を加味することで、社会・産業界が求める最新の技術開発ができる高度な技術者を養成する。また、社会貢献するという強い意志と自身の考えに基づいて解決能力を持って、それを実現するために努力を惜しまない意欲のある学生を求めている。 (求める人物像) ・「エレクトロニクス・情報分野」、「電機・制御分野」の基礎と応用技術を修得し、新しい技術開発に携わり、積極的に社会貢献したいと考えている人 ・自然環境との共生を伴った社会の発展のために、自ら努力して成長していく意欲のある人 ・人間的な成長および自己実現をめざす向上心をもち、共同作業の重要性を認識し実行できる人																																																									
ディプロマポリシー		4年以上在学して所定の単位を修得し、授業や卒業研究を通じて、下記に掲げる能力を備えていると判断できる学生に対して卒業を認定し、学士(工学)の学位を授与する。 ＜工学部＞ 1) 実践力のある専門的技術者となるべく、在学中だけでなく在退にわたって主体的に学修活動を読み重ねる意欲を保持できる。【関心・意欲】【主体的に生涯学習を継続する意欲と関心】 2) 人文社会科学や自然科学・情報技術など、技術者に求められる幅広い教養とスキルを身に付けそれらを活用できる。【知識・理解・技能】【技術者に求められる文・理・情報系の素養】 3) 専門分野の知識・技術を体系的に理解し、社会や時代の変遷に応じてそれらを実践的に活用できる。【理解・応用・技能】【専門分野の知識・技術(詳細は学科DP)】 4) 技術者および社会人としてふさわしいコミュニケーション能力を備え、他者の意見・意向を正確に把握するとともに、自らの意見・意向を的確に表現し、相互理解のもとで議論することができる。【協働・表現】【相互に理解し議論するコミュニケーション能力】 5) 社会的な課題の解決に向けて、他者と積極的に協働して取り組むことができる。【意欲・協働】【他者との協働による課題の解決能力】 6) 地球規模の視野に立ち、持続的な社会の維持・発展に向けた技術者としての使命感や管理職を備え、社会に能動的に貢献する行動ができる。【理解・応用・倫理】【社会に対し能動的に貢献する行動力】 ◆注：「3)」「5)」を明確化したものが、各学科のDPとなる ＜電子情報通信工学科＞ 電子情報通信工学科では、工学部ディプロマ・ポリシーに基づき、専門学術の基礎と実践力を兼ね備えるよう、学科として下記に掲げる能力を備えていると判断できる学生に対して卒業を認定する。 (A) 数学や自然科学などが情報技術の基礎知識と技能に貢献している。A-1) 数学や自然科学の基礎知識と応用【A-2) コンピュータによる文章・統計資料の作成ならびに情報検索ができる。【文章・統計資料の作成と情報検索能力】 (B) 国際社会への貢献を自覚し、技術者倫理に基づいて行動できる。B-1) 人文社会科学に関する幅広い知識を持ち、地球規模の視野で持続可能な社会を構想することができる。【人文・社会・社会科学の知識と社会貢献の自覚】B-2) 技術者として必要な社会倫理を理解し実践できる。【技術者倫理の理解と実践力】 (C) 国内外で活躍する技術者に必要な自己表現力と協働力に貢献している。C-1) 日本語による論理的な表現ができる。【日本語での対話能力】C-2) 外国語によるコミュニケーションができる。【外国語での対話能力】C-3) 技術的内容を伝達するプレゼンテーションができる。【技術的内容の伝達能力】 (D) 電子・情報通信分野の課題に取り組むために必要な専門知識と技能を蓄積している。D-1) 電気回路などの専門的知識と技能を身に付け活用できる。【電気回路等の専門的知識と活用能力】D-2) 電子デバイスや情報通信、ハードウェアソフトウェアに必要な知識や技能が自主的な学習計画に基づいて修得し活用できる。【電子・情報通信分野の専門知識を理解して課題解決に活用できる。【電子・情報通信分野での課題解決能力】D-3) 電子・情報通信分野の専門知識を理解して課題解決に活用できる。【電子・情報通信分野での課題解決能力】 (E) 自主的な学習による問題解決能力を継続的に向上させることができる。E-1) チームワークで課題解決の計画を立案してそれを実行できる。【チームワークによる課題解決能力】E-2) きまじな解決方法がある課題を独自の方法で考え実行できる。【独自の方法での課題解決能力】E-3) 与えられた条件下で課題を解決できる。【与えられた条件下での課題解決能力】E-4) 自主的な学習を継続することができる。【自主的な学習の継続能力】																																																									
分野別到達目標		グローバル化の時代に対応できる社会人の基礎的知識・能力として、広い視野の人文社会科学の知識・理解力、言語の基礎知識を身に付け、コミュニケーション能力を高めることにより、心身の健康を維持増進する力を備えている。			数学や自然科学の基礎知識と技能に貢献している。A-1) 数学や自然科学の基礎知識と応用【A-2) コンピュータによる文章・統計資料の作成ならびに情報検索ができる。【文章・統計資料の作成と情報検索能力】			グローバル化の時代に対応できる社会人の基礎的知識・能力として、広い視野の人文社会科学の知識・理解力、言語の基礎知識を身に付け、コミュニケーション能力を高めることにより、心身の健康を維持増進する力を備えている。			電気回路などの専門的知識と技能を身に付けている。日本語による論理的な表現ができる。技術的内容を伝達するプレゼンテーションができる。電子・情報通信分野の専門知識を理解して課題解決に活用できる。チームワークで課題解決の計画を立案して実行することができる。さまざまな解決方法がある課題を独自の方法で考え実行することができる。与えられた条件下で課題を解決することができる。自主的な学習の継続をすることができる。			技術者として必要な社会倫理を理解している。		電子デバイスやハードウェアに必要な知識や技能が自主的な学習計画に基づいて修得できている。電子工学の基礎となるトランジスタなどの物理を理解し、それを組み合わせた電子回路により工学的な仕掛けを作りだすシステム技術を構想できる。		情報通信工学やソフトウェアに必要な知識や技能が自主的な学習計画に基づいて修得できている。情報通信に関わる数学的知識に基づき、情報を管理するモデルを設計し、習得した技術をシステムの利用と開発に応用することができる。		卒業に必要な単位数124単位																																							
配当単位数合計		-			-			配当単位数合計			36単位			6単位		26単位		26単位		94単位																																							
2 4	前期・後期	進年		数学(2)	物理学(2)	化学(2)	生物学(2)	地学(2)	環境学(2)	情報学(2)	英語(2)	キャリア教育(2)	卒業研究	卒業研究		卒業研究		卒業研究		卒業研究		卒業研究		卒業研究		卒業研究																																	
		前期・後期	基礎電子回路II 2	電子情報通信実験II 2	電気回路II演習 1	電気回路II 2	電子情報通信実験I 2	電気回路I演習 1	電気回路I 2	電子情報通信基礎演習I 1	コンピュータ基礎 2	情報と職業 2	電波・通信法規 2	光エレクトロニクス 2	デジタル電子回路 2	半導体デバイス基礎 2	アナログ電子回路 2	情報社会と倫理 2	電気磁気学III 2	制御工学 2	通信方式I 2	電磁波工学 2	メディア情報開発 2	映像・音響工学 2	ネットワーク設計 2	情報理論 2	12単位																																
1	前期・後期	進年		世界と人間(2)	文化表現基礎(2)	ベシク・イングリッシュa(1)	F-3a・スピーキングa(1)	F-3a・スピーキングb(1)	工学に特化した英語基礎a(1)	工学に特化した英語基礎b(1)	キャリア・イングリッシュa(1)	キャリア・イングリッシュb(1)	キャリア・イングリッシュc(1)	キャリア・イングリッシュd(1)	中国語コミュニケーション(1)	中国語と現代中国事情(1)	生涯スポーツII(各1)	解分方程式(2)	微分方程式(2)	線形代数I(2)	線形代数II(2)	線形代数III(2)	線形代数IV(2)	複素解析I(2)	複素解析II(2)	応用数学I(2)	応用数学II(2)	実用化学(2)	実用化学(2)	地球システムと人間(2)	電気化学(2)	人間発達と人間(2)	教育原論(2)	道徳教育(2)(~2018)	基礎電子回路II 2	電子情報通信実験II 2	電気回路II演習 1	電気回路II 2	電子情報通信実験I 2	電気回路I演習 1	電気回路I 2	電子情報通信基礎演習I 1	コンピュータ基礎 2	情報と職業 2	電波・通信法規 2	光エレクトロニクス 2	デジタル電子回路 2	半導体デバイス基礎 2	アナログ電子回路 2	情報社会と倫理 2	電気磁気学III 2	制御工学 2	通信方式I 2	電磁波工学 2	メディア情報開発 2	映像・音響工学 2	ネットワーク設計 2	情報理論 2	12単位
		前期・後期	基礎電子回路II 2	電子情報通信実験II 2	電気回路II演習 1	電気回路II 2	電子情報通信実験I 2	電気回路I演習 1	電気回路I 2	電子情報通信基礎演習I 1	コンピュータ基礎 2	情報と職業 2	電波・通信法規 2	光エレクトロニクス 2	デジタル電子回路 2	半導体デバイス基礎 2	アナログ電子回路 2	情報社会と倫理 2	電気磁気学III 2	制御工学 2	通信方式I 2	電磁波工学 2	メディア情報開発 2	映像・音響工学 2	ネットワーク設計 2	情報理論 2	12単位																																
分野		キャリア形成の基礎			工学の基礎			数理学と教育			その他連携			分野			基幹			技術人材育成・資格関連科目		エレクトロニクス系科目		情報通信系科目		年間履修上限単位数44単位																																	
カリキュラムポリシー		＜工学部カリキュラム・ポリシー＞ 工学部ディプロマ・ポリシーに掲げた能力を備えた人材を育成するために、以下のような方針に基づいて必要な科目を開設し、学習者が主体的に学修できる科目を選択し履修する。科目の選択は履修計画を基に、科目の選択を求めない科目を履修する。 1) 人文科学、自然科学、情報技術、経営、知識の習得と地域共生などに関する科目によって、技術者に求められる幅広い教養を養う。 2) 継続した英語教育によって、英語による基礎的なコミュニケーション能力を養う。 3) 必修・選択(選択必修を含む)科目によって、専門分野の基礎知識を体系的に身につける。特に重要な科目については、履修機会を徹底して保証する。 4) 実験・実習・探究演習(Project Based Learning, PBL)の科目によって、自発的・継続的に学修する能力、理論的思考力ならびにコミュニケーション能力や協働への意識を養う。 5) 卒業研究に関する科目によって、技術者としての使命感ならびに倫理観を養う。 6) 学士課程教育の最大域とする卒業研究によって、論文をまとめる理論的思考力、プレゼンテーション能力、コミュニケーション能力と、実践力のある専門的技術者として必要な能力を養う。 ◆注：「3)」「4)」「5)」「6)」を明確化したものが、各学科のCPとなる																																																									
アドミッションポリシー		電子情報通信工学科は、電子工学、情報工学、通信工学の分野において、国際水準の基礎学力と社会人基礎力を身に付け、社会・産業界が求める実践的な専門知識やスキルを持った人材を養成します。このことから、身に付けた能力を活かして社会で活躍したいという強い意志を持ち、それを実現するための努力を惜しまない学生の入学を求めています。 (求める人物像) (1) コンピュータを中核とした電子工学に興味を有する人 (2) 電子工学のハードウェア開発技術、ソフトウェア開発技術、インターネット構築技術を学ぶことによって、将来これらの知識や技術を社会に役立てたいと考えている人 (3) 自ら進んで学ぶという意欲のある人																																																									